

Global



グローバル

OM日本のビジョン VCJF

P6

三重県

地方における宣教祈祷

紀伊半島合同祈祷会

P4-5



ぶっとびキャンプ

ユース・

P3

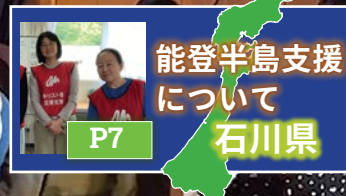
ロックフェス



四国宣教開始

徳島県

P2



能登半島支援
について

石川県

P7

2026年
短期宣教
募集要項



OMのミッションステートメント：私達の願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられることです



徳島県

四国宣教が2026年 4月より開始

「新しい地で新しいチームを始めるビジョン。ぜひ祈っていただけませんか。」

2022年春、この問いから四国宣教は始まりました。祈りの中で主は、カーワイ姉とジョアナ姉を召してください。準備を進めてきました。

2026年3月、二人は徳島県阿波市に拠点を移し、四国宣教がスタート。阿波市には教会が1つもありません。引っ越しをして1ヶ月、阿波市の近隣の町にある教会を訪問し、交わりを持ちました。その中で明かされた1つの事実。

それは、二人が遣わされるずっと以前から、すでに阿波市のために祈りが積み上げられていたということです。積まれた祈りが今、形となって現れている。主の計画の確かさに、胸が熱くなりました。

主は真実なお方。この地に注がれてきた祈りの上に、これからどのような実りが結ばれていくのか。主が阿波市での宣教を豊かに祝福し、力強く導いてくださるという期待が、心にあふれています。

新メンバー育成 トレーニング

2022年9月、三重県の日本家屋でOM日本トレーニングセンターが始まりました。

様々なトレーニングが行われていますが、その代表的なものが「新メンバー育成トレーニング」、新しく来日した宣教師のための3ヶ月間のプログラムです。日本語や日本の歴史・文化、教会について学びながら、OM日本の各チームを訪問し、主がどこへ導いておられるのかを祈りつつ受け取って行く期間です。これまで10名がこの場所で過ごし、それぞれのチームへと派遣されていきました。

2026年4月には、台湾からの宣教師オー・ビー・セン姉もトレーニングを終え、三重チームへの所属が決まりました。彼女は特に、若者たちへの宣教に情熱を持つ宣教師で、動画とメディアの賜物を持っています。

このトレーニングセンターで良い訓練と整えが行われ、宣教師たちが続々と日本各地へ遣わされていくことを願っています。



西村ファミリー

ぶっとびキャンプとのパートナーシップ

「ぶっとびキャンプ」とは、主が東京の町田にある「Jesus Family Church」に与えられたビジョンです。教会スタートから40年間。キャンプを通して、子どもたち、ユースをイエスさまにつなげる働きをしています。しかし、Jesus Familyがあまりにも「ぶっとんだ」キャンプをしてきたので、とうとう借りられるキャンプ場がなくなってしまいました。「何をしても怒られないキャンプ場を与えてください!」と主に祈り、19年前に長野県にキャンプ場が与えられました。リーダーの西村希望先生はいつも言います。「日本のユース、子どもたちにイエスさまの愛を伝えたい。彼らをイエスさまにつなげたい!」ただただその一心で、様々なことにチャレンジし燃えている教会です。

昨夏、この「ぶっとびキャンプ」にOM日本から3名が参加し、祝福された時を過ごすことができました。そして、この春さらに働きが広がり、国際色豊かな9名のOMチームで仕える恵みの時となりました(日本、韓国、台湾、マレーシア、アメリカ、モンゴル)。海外から来たOMのチーム、そして私たちOM日本にとっても、ユースミニストリーを経験し学ぶ機会となり、大きな祝福でした。

特に心に残ったのは、すべての音を止めて主の前に静まる「Shh Time (シータイム)」。不安もありましたが、実際に行くと、静寂の中で主に触れられ、涙を流す若者たちの姿がありました。騒がしい日常から離れ、ただ主と向き合う時間の力を深く実感しました。

さらに、若者たちはDBS(ディスカバリー・バイブル・スタディ 直訳: 発見型聖書研究)を通して、自ら聖書を読み、神さまや自分自身について発見していきましました。

チームで用いられたことに感謝しつつ、来春の「ぶっとび2027」でも引き続き協力できることを喜んでいます。日本の若者たちのために、主の働きがここからますます広がっていきますように。



トレーニングの指導者と三重チームによる
祝福と送り出しの祈り



天にある 日本ユースのロックフェス

オー・ビー・セン (台湾)

ぶっとびキャンプ

奉仕に参加した国際色豊かな9人のOM宣教師たち (セン宣教師は右から2人目)。



2026年、新人宣教師として台湾から来日したセン宣教師は他OM宣教師8人と共に、長野県にあるキャンプ場「ぶっとびキャンプ」における奉仕に参加してきました。

私はよくこう考えます。「もし天国に『J-POPロック席』のようなエリアがあるとしたら、一体どんな光景だろう？」と。私たちは、日本の見事なファン文化や応援文化をよく知っています。一糸乱れぬコール、美しく揺れるペンライト、そして魂を燃やするような熱狂です。もし、私たちが全力で追いかける「推し」がイエス様であり、私たち全員がイエス様に熱狂する「筋金入りのオタク」になったらしたら、この世界はどれほどひっくり返るような変革を遂げるでしょうか。

今回の「ぶっとびCAMP」で、私はまさにその光景を目にしました！日本の若者たちが一緒に、何のはじらいもなく声を張り上げてワーシップ（礼拝）を捧げている姿を見た時、私の心は激しい感動で震えました。これこそが、リバイバルの原点です。なぜなら、真の礼拝とは単なる賑やかな音楽ではなく、一つの命が神の前にすべてを投げ出してひれ伏すことであり、その姿がもたらす力こそが、世代全体を揺るがすからです。

聖書の『詩篇』110篇3節にこうあります。

「あなたの民は、あなたの戦いの日に喜んで仕える。聖なる威光をまとうて夜明け前から。あなたの若さは朝露のようだ。」

詩篇の記者は、若者の命を「朝露」という美しい比喻で表現しました。露は短く儚いものですが、野原を美しく飾り、万物を鮮やかに輝かせます。そして土に浸み込み、一見すると静かに

消えていくように見えますが、実は最も尊い栄養分となり、渇いた地の奥深くで、時代を揺るがすエネルギーを静かに育てているのです。私は、神様がこの世界とは全く異なる「日本の教会の次世代」を今、備えられているのを見た気がしました。自らを進んで捧げる彼らの精神は、優しく、しかし圧倒的な波及力をもって、この地にリバイバルの火を燃え広げさせていくと信じます。

今回、何よりも感動したのは、グループタイムで将来の夢を尋ねた時のことです。なんと半数以上の若者が目を輝かせながらこう答えたのです。「ユースパスターになりたいです！」「心理カウンセラーになって、次の世代の子供たちに寄り添いたいです！」

私たちはこれまで、「日本のクリスチャン人口はわずか1%」という言葉や、どこか無力感を伴いながら口にするのが多かったかもしれません。しかし、彼らの熱い礼拝と献身の姿を見た時、私の心にひとつの思いが与えられました。「これほど燃えるような礼拝と献身があるならば、1%のクリスチャンがいれば十分だ！」小さな火花が広大な野を焼き尽くすように、私たちの神は、激しい「聖なる炎」を降らせてくださるだろうと。

また、キャンプ全体の細やかな運営にも深い衝撃を受けました。部屋の管理、奉仕の役割分担から掃除に至るまで、表舞台でも裏舞台でも、すべてのスタッフが小学生から高校生までの子ども・若者たちで構成されていたので

す。現地の教会がどれほど若者たちを信頼し、機会を与え、失敗を恐れずに挑戦させているかを目の当たりにしました。

日本において青年世代のリバイバルを見るために、私たちが学ぶべきことがまだまだたくさんあると思いました。この世代と同じ目線に立って対話する方法、現地の成熟した教会がどのように若者たちに寄り添っているか、そしてどのようにして若者たちに本当の舞台を譲り、彼らを決して見くびらないか。私たちは自分たちがもう若くないことを潔く認め、彼らの溢れるクリエイティビティから謙遜に教を請う必要があると思いました。

今回の「ぶっとびCAMP」で非常に多くのことを学びました。心からの畏敬と感謝を捧げます。現地の日本の教会と共に主のために働けることは、なんと幸いなことでしょう。

「イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティ（VCJF）」を築くことこそが、私たちOMのビジョン、切に願っていることです。若者たちの命が礼拝の中で神様に取り戻され、リバイバルが巻き起こる時、彼らが形成する活き活きとしたコミュニティは、この時代にとって最も輝かしい希望となるはずです。

どうか神様が、日本の若者たちの心の王座に完全に就いてくださいますように。彼らの人生の焦点が、ただ主イエス・キリストお一人にありますように。



① 小グループに分かれてのDBS（発見型聖書研究）② OM船に乗っていたルミさんによる、人生を変えられた話と、一步を踏み出す勇気についての証 ③ テント内での難民体験、および世界のためのとりなしの祈り

紀伊半島とは三重、奈良、和歌山の3県がある半島です。そこには日本神道の頂点にある「伊勢神宮」、また大陸からの仏教と自然崇拝の修験道が結合して生まれた「熊野信仰」、空海が真言密教の開創をした「高野山」、そして天理教本部である「地場」があるなど、日本全国に影響を及ぼす大きな霊の砦が数多く存在します。



製作: 紀伊半島合同祈禱会

紀伊半島合同祈禱会への導き



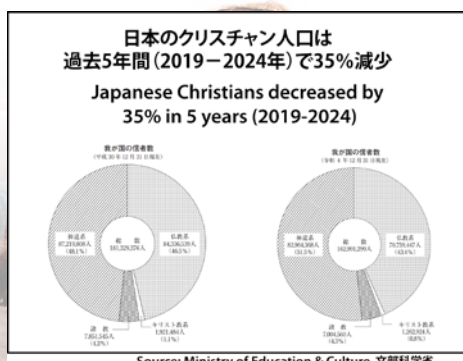
近藤健二 OM三重チーム

2024年10月、三重県において初の超教派宣教大会「三重宣教フォーラム」が開かれました。その準備のプロセスにおいて、一つのビジョンが与えられました。それは、日本の霊的に重要なこの紀伊半島において、もしキリストにある教会が教団教派を超えて、一致の心で宣教と救霊のために祈ることができれば、主が大きく用いてくれるのではないか、というものでした。

経緯と趣旨：

1 日本の教会の危機的状況

2025年、日本の教会の多くは縮小し続けている。年間100件以上といわれる教会が消滅。文科省における宗教の統計調査では、キリスト教系宗教の人口は直近の過去5年間で35%減少した。日本国内の大多数の教会は、若者と牧師の減少から来る人手不足が、教会のエネルギー不足に直結しています。



2 宣教スピリットの脆弱

多くの教会が人手不足と高齢化に苦しみ、宣教としては防戦一方、教会は内向きにならざるを得ない状況です。これは地方に行けば行くほど顕著に現れています。何年も続く洗礼者ゼロの状態は慢性化し、常識化してしまっており、人々の頭をめぐる言葉は「何をしてもうまくいかない」「どうせ信じない」「やっても先が見えている」。まことに残念ながら、多くの教会は負のサイクルに陥ってしまっているというのが、悲しいながらも受け入れなくてはならない現実です。

3 リバイバルは教会の内側から

そんな教会の負のサイクルに「変化」を起こしたい。そのためには、まず過去の悔い改めであったり、教会内や教会間の関係に和解が起こること。それによって教会の思考と方向性が変化していく。その変化は必ずクリスチャンの歩みを元気にしてくれます。そして地域のキリストにある教会が一致の心で協力して宣教すること。これが、主のみこころにかなうことだと信じます。なぜなら主なる神は日本民族を愛しており、その魂を救いたいと切に願っているからです。

2025年より、各県から委員になる牧師たちを主が与えてくださいました。そして祈りのためのリソースとして、家族や友人の救霊のためのガイド冊子「まだ神を知らない隣人のための30日間の祈り」、また和歌山県牧師会とコラボして制作した、和歌山県全体のために祈る「和歌山の教会情報ポスター」、そして三重県の各市町村のために祈る小冊子「30日間の三重への祈り」などを制作してきました。そして今後も作り続けます。

また同年6月には、紀伊半島合同祈禱会の主催で、インドネシアより講師を迎えて「宣教祈禱のためのモービライゼーション・セミナー」を開催。三重県名張市において3日間のセミナーを行うことができました。47名の方が、11の都道府県から参加してくださいました。使用言語は英語、日本語に加え、ポルトガル語の3言語を使うトライリンガル・イベントとなりました。主が与えてくれた機会に感謝します。

紀伊半島3県は、新幹線もない人口の少ない地方県です。でもそんな場所で教会協力と教会刷新(リバイバル)がおこれば、「紀伊でできるなら、うちの県でもできるやろ」と思っていただけののではないのでしょうか。

OM日本のビジョン V C J F

船越 信哉 OM日本総主事



OM日本の宣教師たちが受けているトレーニング "Prepare to Harvest" (日本語訳「収穫の準備をせよ!」) では、DBS (Discovery Bible Study) を含めた弟子訓練作りと未信者への伝道方法を学びます。そして各県で働く宣教師たちが、現地のコンテクストで行っていくための話し合いをたくさん持ちます。

OM日本の歴史



OMと日本との関わりは1975年、初代のOM宣教船である「ロゴス号」の日本初寄港から始まります。



その後、1992年に正式に「OM日本」が設立されました。OM日本初代総主事は、石川県の内灘聖書教会の牧師である酒井師です。当時のOM日本の主な働きは、日本から海外へ、特にOM船へ日本人を遣わすことでした。多くの若者たちがOM船に参加、大きく変えられて帰国し、主が用いられる器として活躍しています。主は酒井師を通して、OM日本の『土台』を築かれました。



2代目の総主事は、南アフリカ人のスティーブン・スミスドルフ師。2011年の東日本大震災後、スミスドルフ家族は石川県から東北へ引っ越し、そこで働きを続けてきました。この頃から、主は海外から日本へ宣教師を多く送ってくださるようになり、OM日本は大きな宣教団体へと成長してきました。主はスティーブン師を通して、OM日本の『大きな家』を建てられました。

これまでの4年



2022年4月、主の召しにより、私はスティーブン師からバトンを受け取り4年が経ちました。私はOM日本の総主事になる際、皆に伝えたことがあります。「私は新しいことはしません。主がスタートしてくださった素晴らしい働きがすでにあります。OM日本の『土台』と『大きな家』。今からの4年間は、大きくなったOM日本を整える『内装工事』の期間です。」



その通りに、主はOM日本にリーダーシップチームを築き上げてくださいました。そして様々な分野において、主が召してくださった宣教師が立ち上がり、一人一人が自分の役割を知って、生き生きと歩んでいます。2026年5月現在、約60名の宣教師が5つの地区でイエスキリストの福音を伝える働きに携わっています。

これからの4年

イエス・キリストは天に引き上げられる前にこう言われました。「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。」まず、私自身がキリストの弟子となります。そして、次の弟子を生み出していきます。

主はこの使命を果たすために、教会や宣教団体にさまざまなアイデアや方法、ビジョンを与えておられます。ある教会は音楽やアートを通して福音を届け、ある教会は子ども食堂や地域支援を通して愛を実践しています。また、ある宣教団体は大都市で働く人々に仕え、英語教室やオンラインの聖書学び会を通して、福音が広がり続けています。型

そして主がOMに与えられたビジョン、「私達の願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形作られることです」(英語では "We want to see vibrant communities of Jesus followers among the least reached." 略してV C J Fと言います)。

ここで言う「最も福音が伝えられていない人々」とは、さまざまな状況にある人々を指します。その中で、私たちOM日本が今受け取っている焦点は、地方や未伝地域、特に「教会のない市町村」です。

私たちはこれからも、日本の教会を愛し、尊敬し、仕え続けます。OM日本の宣教師の多くも、既存の教会に仕え、協力宣教師として働いています。日本の教会がますます生き生きとした群れとなり、地域や社会の祝福として用いられていくことを願っています。また、日本に1,000人規模の教会がいくつも生まれ、社会に大きな影響を与え、それぞれの都道府県における灯台のような存在となることを祈っています。そのために、OM日本としてもできることを担っていきたいと願っています。

同時に、「最も福音が伝えられていない人々」に福音を届けるために、祈り、場所を見極め、宣教師を備え、送り続けていきます。

かつての私は、誰かの祝福になるなど考えられない人生を歩んでいました。歩む先々に問題や破壊を生み出してしまような人生でした。しかし、イエス・キリストの十字架と復活によって贖われ、「自己実現」を求める生き方から、「みこころの実現」を願う生き方へと、恵みによって変えられました。だから、祝福になりたい。主の弟子として歩みます。私の主は、イエス・キリストです!

石川県

2024年元旦に能登半島を襲った大地震から2年半が過ぎました。これまで皆さまの祈りと献金に支えられ、能登での支援活動ができたことを感謝します。特に震災初期、能登地震キリスト災害支援会「能登ヘルプ」の立ち上げに協力することができました。全国からのボランティアの受け入れや、チーム編成、現場への派遣といった能登ヘルプの働きのため、約1年間、OM宣教師を遣わすことができました。

また北陸地方に住むOM宣教師の中には、自身も被災した者もいました。その中で、避難所や仮設住宅に支援物資を届け、また炊き出しを行い、訪問、心のケアなど、被災した方々と同じ所に立って支援に携わることができました。そしてまた、被災者支援に奔走する能登の教会と牧師を支えるために、OM宣教師が礼拝でメッセージさせていただく機会も多く与えられました。

この2年の主の導きに感謝しつつ、2026年3月末をもって、OM日本としての能登震災支援活動は一区切りを迎えました。

能登半島地震支援の活動について

今からは、これまでに築かれてきた能登の方々との関係を大切にしながら、福音を届けていきたいと強く願っています。そのために取り組んでいきたいのが、DBS (Discovery Bible Study—発見型聖書研究) です。

教会が家の近くにないという方々に「教会に来てください!」と招くことは、現実的に難しい。だからこそ、宣教師が人々のもとへ出かけて行き、親しい小さなグループの中で聖書を開き、「神とはどのようなお方か」「私たち人間とは何か」という疑問を、DBSを通して共に発見していく働きです。

現在、仮設住宅にお弁当を届ける働きを通して関係が築かれてきた方々とDBSが、すでに始まっています。その中で、福音に心を開きつつある方々も起こされていることを感謝します。

この働きを通して、主が能登の地にイエス・キリストを信じる人々を起こしてくださいと信じます。やがてその小さな集まり一つ一つが合わさり、主を礼拝するキリストの体となっていくことを願い、祈りつつ活動を続けています。

- ① カフェのキッチンで準備する宣教師たち。震災支援には石川県と富山県に住むOM宣教師たちが応援に来る。
- ② OM宣教師たちは能登ヘルプや門前聖書教会と一緒に活動する。
- ③ 仮設住宅の集会所でのカフェ活動の様子。



心のケアを通して最高の贈り物を知って欲しい



私たちOM宣教師たちは、震災の次の日から、能登半島中で震災支援を行ってきました。瓦礫撤去に加えて、炊き出しをはじめ、そして今は各地域の仮設住宅の方達への訪問をして心のサポートをしています。2025年、石川県輪島市門前町でカフェが始まりました。そんな中、OM宣教師たちで仮設住宅の方々とバス遠足に行きました。仮設住宅の方々のちょっとした気分転換のときになれたらと思って企画しました。そしてこの企画を通して、もっとよく知り合うときとなれたこと、楽しい笑顔が見れたこと、感謝します。

私たちは、被災者の方たちが、最高の贈り物であるイエス様を知ることができると願っています。そのために将来、DBSを被災者の方々とできるように、そして救われる魂が起こされることを願っています。ぜひカフェの働きを覚えて祈って頂けたら幸いです。

キム・ソンヘ (韓国)

宣教師として来日して15年。東海地方と北陸地方で活動。震災以降、能登半島の羽咋を拠点に、教会活動と被災者への支援を続ける。



広告欄

郵送料のコスト負担軽減のために広告欄をもうけました。広告掲載はOM日本事務局 info.jp@om.org までご連絡を



GLOBAL
BIBLE
INITIATIVE

HOLY BIBLE
THE
CONCISE
BIBLE

さあ、みんなで広めよう。みことばを。
神のことばはますます広まり、増えていった。(新約聖書より)

「コンサイスバイブル」アプリ

聖書を読んだことのない方が聖書の概要と中心テーマを理解出来るように、読みやすくまとめられた無料アプリです。ノンクリスチャンのご家族やご友人に、聖書の全体像をつかんでいただくことができ、そこからディスカッションも始めやすく、自信をもってシェアできるアプリです。

GLOBAL BIBLE INITIATIVE (GBI) は米国テネシー州ナッシュビル市に拠点を置き、聖書翻訳及び世界宣教を目的とした団体で、現在、米国を始めグローバル範囲で活動を展開しています。https://gbi.llc を参照ください。引用聖句は、GBIが翻訳し、著作権を有しています。翻訳は聖書全体ではなく一部になります。





STM短期宣教募集要項

STEP: ドウロスホープ号に3ヶ月乗船

- 📍 OM船
- 📅 2026年11月1日～2027年1月30日
- 📅 応募締切 2026年8月10日
- 💰 US\$ 3103
- ✅ 18-65歳 (日常会話の英語と健康が必須)

3ヶ月

アメリカでOM船の書庫で働きながら英会話授業

- 📍 アメリカ
- 📅 毎月随時受付 3ヶ月現地滞在
- 📅 応募締切 出発日の3ヶ月前
- 💰 US\$ 1724 (3ヶ月分)
- ✅ 18-60歳 (日常会話の英語と健康が必須)

3ヶ月

- ① STEP (Short Term Exposure Programme) とは、OM宣教船への3ヶ月の乗船を体験できるプログラムです。さまざまな国の人々と共に生活し働くことで、異文化でのクリスチャンの働き人に必要なことを直に経験することができます。奉仕の心、学ぶ姿勢、柔軟性を持ってぜひご参加ください！一生に一度の素晴らしい経験になります。

- ① アメリカ滞在中は、半日間をOMの書庫でボランティア作業、そしてもう半日で無料の英会話 (ESL) の授業を受講できます。宿泊はOMのセンター内にて、海外から来た人たちと一緒に生活し、自炊もします。世界宣教/海外宣教において、アウトリーチにも、チームとの会話にも英語能力は必須ですので、ここで力をつけましょう。

REACH Across Europe:

イギリスとモルドバで伝道活動をしながらの弟子訓練

- 📍 イギリス、モルドバ
- 📅 2027年2月8日～6月11日
- 📅 応募締切 2026年10月末
- 💰 GBP 3540
- ✅ 18-29歳 日常英会話ができる

4ヶ月

- ① **トレーニング:** 最初の5週間のトレーニングは英国の「The Quinta」で行われ、その後、6週間かけて列車でヨーロッパを横断しながら伝道活動をします。最後の7週間はモルドバの「Mission Centre」で行われます。すべてのトレーニングは、聖書理解、チームワーク、そして宣教弟子訓練における強い土台を築くことを目的としています。
- ① **アウトリーチ:** チームは英国の都市やモルドバの村でアウトリーチを行うほか、「Race Across Europe」アウトリーチとして、英国からモルドバまで6週間かけて列車でヨーロッパを横断します。この期間中、トレーニングで学んだことを実践しながら、伝道や異文化環境での働きについて経験を積みまします。さまざまな民族、国籍、背景を持つ人々の中で、クロスカルチャー宣教を実践する機会となります。
- ① **メンタリング:** 参加者一人ひとりに、経験豊かなクリスチャンのメンターが付き、毎週1対1のセッションを行います。そこでは、霊的・感情的・実践的な成長を助けるための導きや励ましを受け、意味のある目標設定をサポートしてもらいます。

Off The GRID ニュージーランド (アウトドア弟子訓練)

40日間

- 📍 ニュージーランド
- 📅 2027年1月17日～2月26日
- 📅 応募締切 2026年9月末
- 💰 NZ\$ 4247
- ✅ 18-30歳 基本的な英会話能力必要

- ① 「オフ・ザ・グリッド NZ」ではニュージーランドの奥地で神様の言葉を、主の使命に生きる人生を、探求するものです。このプログラムには、メンタリング&弟子訓練、聖書研究&リーダーシップ、トレーニング、アウトドア・アドベンチャー&メディア断食が含まれています。
- ① **活動内容:** ・18歳～30歳のインターナショナルチーム (8名) と共に様々な体験をする。・聖書の学びと祈りによってクリスチャンとしての信仰を確認する。・イエス様にある希望を分かち合うための自信を身につける。・アウトドア・アドベンチャー (バックパッキング、カヤック、キャンプ) を通して聖書的なコミュニティを経験し、自分をより深く知る。
* Off The GRIDは肉体的に厳しいものです。厳しい環境の中、何日もかけてハイキングとカヤックをします。体調が整っていること、また一日中動き回ることのできる体力が必要です。健康は必須です。

OMではこのほかにも、短期宣教の要項が常時200件、長中期宣教師の募集は300件あります。主があなたにくださった導きを共に探すお手伝いをします。国名を明記してOM事務局までご連絡を！

8



献金方法

OM日本では、下記の3つの項目で献金を受け付けています。

1. 世界中でおこっている紛争、災害の支援 (ミャンマー地震、ウクライナ難民、トルコ地震を継続して受け付けています)
2. 日本から送り出されている宣教師へのサポート 献金 (宣教師の氏名を明記)
3. OM日本の事務局と活動資金

サポート送金先:

【ゆうちょから】
郵便振替口座: 02100-0-24998
口座名義人: OM日本事務局

【他行から】
店名: ニー九 (ニーイチキョウ)
店番: 219 当座預金
口座番号: 0024998 (OM日本事務局)

送金の後は、こちらのQRよりフォームを記入して送金内容を事務局までお知らせください。



その他のお問い合わせは事務局まで連絡ください。
電話: 076-239-2830

OM日本・OM Japan

🌐 www.omjapan.org 📱 fb.me/omjapan
✉ info.jp@om.org ☎ +81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX)

📍 〒920-0277 石川県河北郡内灘町千鳥台2丁目394
OM日本会報紙 グローバル 第94号 2026年夏号

発行人: 船越信哉 編集&デザイン: 近藤健二



OM (Operation Mobilisation) は、世界約147カ国で3280名が活動している超教派の国際的宣教団体です。OMは世界宣教のために奉仕者の育成と、最も福音が伝えられていない地域への伝道、そしてイエスに従うものによる生き生きとしたコミュニティが形づくられ、育成されていくことを目標としています。